

▶今月の主な記事

若手経営者18人の
思い、想い、念い…
2~3

副理事長、専務理事、
常務理事の新年挨拶
4

理事の主張
6

二、三、四運動を！
7

目指すべき経営者像を持つとう、新しい年に

中小企業診断士 成岡秀夫さんに聞く

社会が不確実さを増しているなかで、中小企業経営者は地域に足を置くことと併せ、自身の経営力をどう磨くか、が大事になっているように思います。新年にあたり中小企業診断士の成岡秀夫さんに経営者像を尋ねました。(編集部)

—2015年を振り返りながら、2016年がどういう建設業の世界になるのか、しっかり描いておかなければと思いますが。

成岡 2015年の経済は全体的には落ち込んでいないが、大きく成長もしていない。一部の業種以外は横ばいだったと思います。建設では、例えば老舗の料亭が立ち行かなくなって廃業し、建物がマンションやホテルに替わり、そういう仕事が目立ちました。2016年もこの延長ではないでしょうか。

梅小路の交通博物館、七条新駅、中央市場などの工事はあるものの、個人住宅は伸びない。市内の中心部は中高層の建物が建替えられており、リフォームが増えるでしょう。高齢化や空家問題が深刻なっています。洛西や

桂坂の70歳以上の人には中心部のマンションへ引越ししたいそうです。そういう状況でパイは小さくなっています。

国は経済活性化のためにお金のバラマキをするが、建設業にシャワーみたいに落とさない。どちらかというと、製造業や農業にお金を配っていきます。太陽光発電はブームが去ったが、省エネ住宅の補助制度は充実するで



成岡秀夫さん略歴
1952年京都府生まれ。京都大学工学部卒業後、三義レイヨンに就職。同朋会出版へ転身。経営破綻に至る。破綻の反省から中小企業診断士に。現在、成岡マネジメントオフィス代表取締役

しょう。こういう面から見ても2016年の絵は描きにくいですね。

—そういう経済環境のなかでは、中小企業の位置はなかなか高まっているんですね。どう考えたりどう行動したらいいのでしょうか。

成岡 全体的には中小企業のポジションは両極端だ。規模や売上は小さいけど、特化しているものがある企業は生き延びています。同じことしかやっていない企業は淘汰されるというか、廃業の道を歩いています。息子が親父の仕事を見て魅力を感じない、継ごうかという気持ちにならないのです。そういうゾーンにいる企業は沈下します。

売上だけ伸ばす発想をしている社長は少ない。他企業ではできないことがうちではできる。ロットが少なくて利益率がいい。規模より少しづつでも粗利益を良くする。人間でいうと、筋肉がついてきて皮下脂肪が減った。体脂肪率が減ると長距離走れるのです。こういう企業体质になると次の絵が描けるようになります。(続く)



業・技・職の

継承者たちの輝き

塗装職人 松井蓮さん(22歳)

塗料で汚れた作業ズボンが188cmの長身に似合う。彼なら何でもファッションになる。近所の歯医者さんの工事現場を見たまま見て、「塗装、面白そう」…それから2年半。古びたり汚かったものが、塗ると見違えるほどきれいになっていく。これがたまらない。刷毛の手を止めて「将来は独立して会社を持ちたいですね」と語る夢もまた、彼によく似合う。(雄)